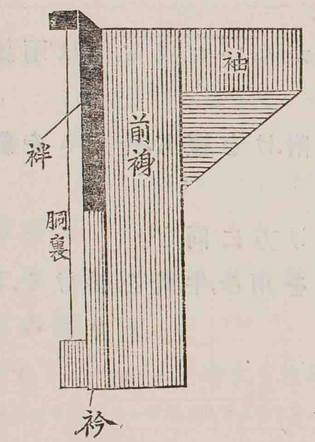
## 鯉口袷袢纏　（一名もぢり袖）

**名稱**　圖參照

左半身




### 仕立て上げ寸法

（メートルは糎單位）

| 名稱 | 寸法 | |
|---|---|---|
| | 鯨尺 | メートル |
| 袖口 | 3寸ヨリ4寸 | 11.4ヨリ15.2 |
| 袖附 | 10寸ヨリ11寸 | 37.9ヨリ41.7 |
| 備考 | 其他ハ長袖ノ場合ニ同ジ | |



**裁ち方**

袖の寸法が異る外は,長袖の袢纏の場合に同じ。

**積り方**

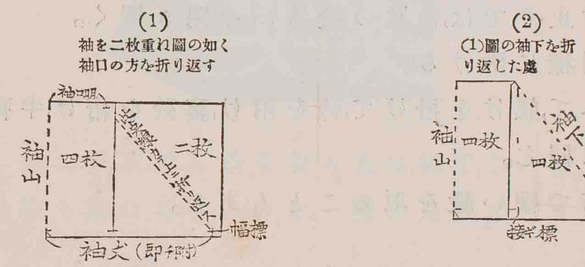
袖丈の定め方　公式　2袖口＋袖幅＋縫代＝袖丈

算式　4×2＋9.5＋0.3＝17.8

他の積り方は長袖の積り方に同じ

**標の附け方**

袖



裙及衿は長袖袢纏に同じ。

**縫ひ方**

(い)袖口を合せ,折りは表に返して,毛抜き合せにする。

(ろ)接ぎ標の處で,下の方の裏表で,上の二枚を挾んで,袖口の方から四つ縫ひになし,附けの方3寸位の間は,裏表を別々に縫ひ表に返す。

(は)胴接ぎをして,背を四つ縫ひにする。

(に)脇を裾の方2寸位の間は別々に縫ひ,それから上は四つ縫ひにする。但し袖附止りでは,後脇の縫込みを開き置く。

(ほ)袖男衿袖と同様に附ける。

(へ)前の端を揃へて,躾けを掛けて,衿を附け,裏衿を絎け,半衿を掛けること,女袢纏に同じ。

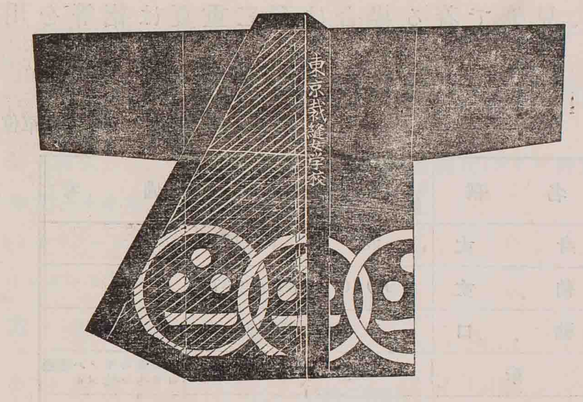
但し袖口に,共布で細い縁を取ることもある。

**印袢纏**

印袢纏は,一般に職人の着するものである。



**名稱**　圖參照




**仕立て方**　衿と單衣,但し衿を着る人は,稀で,この社會の人は,冬でも單衣を,幾枚も重ねて着るのを,一種の見榮として居る。

**地質及色**

表　三河木綿で,色は黑又は紺　肩當て,及裏淺黃木綿　袖口布,共

布,淺黄木綿,更紗,又は赤茶の木綿(紅瓦色とも云ふ)。
但し祭禮等に,見榮で着る場合は,羽二重夏は絽等を用ひる。

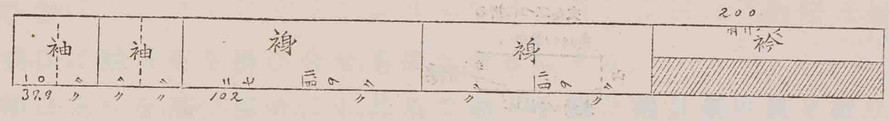
## 仕立て上げ寸法

(鯨尺は寸單位 メートルは糎單位)

| 名稱 | 寸法 鯨尺 | 寸法 メートル | 備考 |
|---|---|---|---|
| 身丈 | 23 | 27.1 | |
| 袖丈 | 9ヨリ10 | 34.ヨリ37.9 | |
| 袖口 | 3 | 30.3 | |
| 裄 | 一バイ | | 布巾廣キモノハ並通ヨリ少々詰メル |
| 後幅 | 7.5 | 28.4 | |
| 前幅 | 5.5 | 20.8 | |
| 衿幅 | 1.5 | 5.6 | 衿字ノアル場合ハ字幅一杯 |
| 衿肩明き | 2.1 | 8 | |



並幅の布を以て印袢纏の裁ち方,積り方。但し單衣

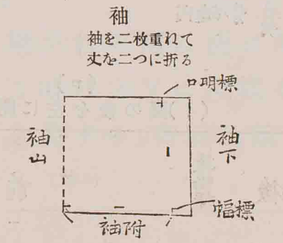



積り方公式　(上り身丈＋三ツ衿縫代＋衿肩明＋衿先縫代)×2＝衿丈
4袖丈＋4身丈＋衿丈＝用布

同　算式　(23＋0.3＋2.1＋1)×2＝52.8
10×4＋27×4＋52.8＝200.8

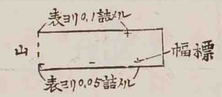
**肩當の裁ち方**　單衣服の肩當と同樣に裁つ

**標の附け方**



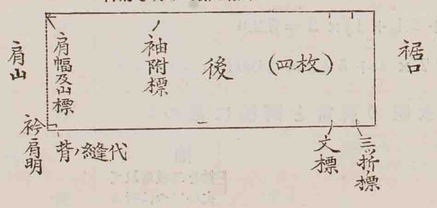
袖口布

袖口布を二枚重ねて
丈を二つに折る



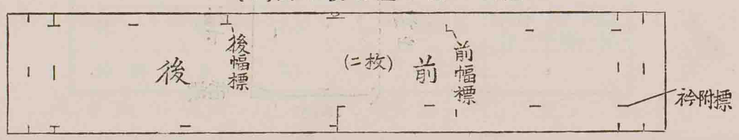

（イ）

褄の布を二枚重ねて丈を二つに折り
衿肩を明けて標を附ける




（ロ）

（イ）圖の後を左に開いた處






衿　は丈標たけをする。

**縫ひ方**

(い)袖口に袖口布を縫ひ合せ,毛抜き合せにする。

(ろ)袖口止りを,四つ留めにし,其糸で袖下を縫ひ,袖口布の奥を絎けること,一つ身單衣の潤袖の縫ひ方に同じ。

(は)肩當ての下を,二つ折りにして,伏せ縫ひにする。

(に)肩當てと共に,背を二度縫ひ,肩當てを平にして,鋲けを掛け置く。

(ほ)脇を縫ひ,裾口を標通りに,三つ折りにして絎ける。

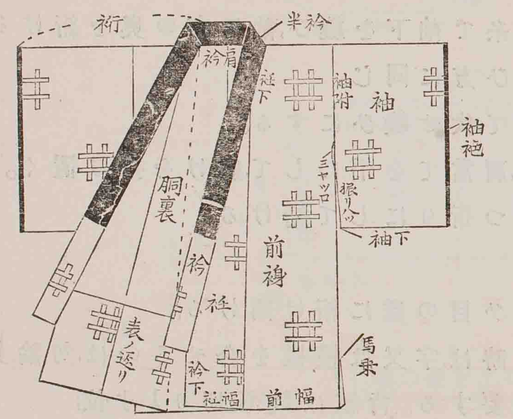
(へ)衿を袢纏と同様に附ける。

(と)袖を附け,肩當てを,袖附け縫ひ目の處に絎け附ける。

注意　背紋·腰字·衿字等のある時は,字又は模様を合せるのは,勿論,其位置にも,注意をすることを要する。(背紋は裁ち切り1寸位)

## 子守絆纏

### 各部の名稱　圖參照




**仕立て方の種類**　袖無　袖有　衽無　衽有

**地質**　絹布　綿布　銘仙　染絣,紡績等

但し袢衿には,天鵞絨を用ひる。



## 仕立て上げ寸法

（鯨尺は寸單位メートルは極單位）

| 名稱 | 寸法 鯨尺 | 寸法 メートル | 名稱 | 寸法 鯨尺 | 寸法 メートル | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 袖丈 | 15 | 56.8 | 衽幅 | 4 | 15.2 | |
| 袖附 | 8 | 30.3 | 衽下 | 5 | 19 | |
| 袖幅 | 88 | 33.3 | 衿幅 | 1.7 | 6.5 | 衽ナシノ時ハ3 |
| 袖口袵 | 0.3 | 1.1 | 衿下 | 5 | 19 | |
| 身丈 | 29、 | 109 | 衿肩 | 2.8 | 10.6 | |
| 袵 | 17.5 | 66.3 | 身八ツ口 | 3 | 11.4 | |
| 後幅 | 8.5 | 32.2 | 馬乘リ | 5 | 19 | 付ケナイ時モアル |
| 前幅 | 7 | 26.5 | 繰越シ | 0.5 | 1.9 | |

**裁ち切り寸法**　袖丈15.5寸衿肩3寸。

一反の布を以て表の裁ち方。

普通衣脇に同じ。但し共衿は不用。

**表の積り方**

公式　{(總尺－4袖丈)＋2裁切衽下}÷6＝身丈

算式　{(280－15.5×4)＋5.5×2}÷6＝38.1

**裏の裁ち方**

衿を取らないから,衽を一幅で裁ち合せ,半幅にするの他は,表の裁ち方に同じ。

**裏地の積り方**

公式　8上り袖丈＋11標附身丈－3裁切衽下＋總縫代－表用布＝裏地

算式　15×8＋29.3×11－5.5×3＋15－280＝160.8

縫ひ代の解

袖下　胴接代　繰越
4 ＋ 5.5 ＋ 5.5＝1.5

**縫ひ方**

袖の縫ひ方は,一つ身綿入潤袖に同じ。

褄の縫ひ方は,身八つ口を附ける外は,男物綿入胴着に同じ。

綿の分量　青梅綿二袋位。



## 兩面着物

兩面の着物は,兩側共表に出して着られる樣に,仕立てるので,一枚で二枚の着物の代用をする。

**裁ち方**

裏表共,普通衣服の裁ち方と同樣。

其外に,袖口の裆布として,幅1寸丈81寸のものを,二枚と,裾の施布,丈1寸のものを五布要する。

**標の附け方**

裏表共,袷服の表と同樣にする。

**縫ひ方**　但し口綿

(い)袖口を二枚合せ,其中に裆布を,幅二つに折り,其中に綿を入れたのを挾んで,四つ縫ひになし,其他は袷服と同樣に縫ふ。

(ろ)裏表の背脇を縫ひ,衽を附けて裾を合す。

裾を合せる時は,裆布を一枚毎に褄と同寸法に縫ひ合せ,丈を二つ

に折り,綿を含んで挾み附けにする。

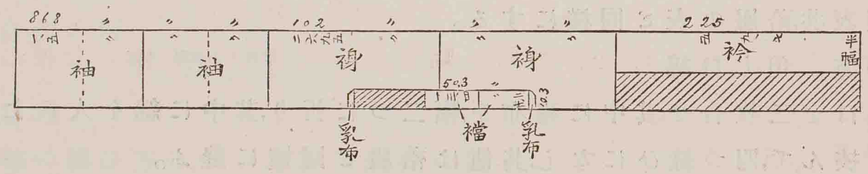
(は)各縫ひ目を綴ぢ,袖を附けて,衿下を縫ふ。

(に)二枚の衿山を縫ひ合せて,縫ひ目を開き,一枚を褄の方に附けて衿先を縫ひ,此處も縫目を開き,片側を細かく絎け附ける。

## 兩面羽織

兩面羽織は,兩面着物と同意味で,片側に縞,片側には無地等を用ひる。並幅の布を以て,兩面羽織表の裁ち方,積り方。

但し袖丈 1.45寸　身丈26寸の仕立て上げ。




積り方公式　上り身丈＋三つ衿縫代＋繰越－袖附＋上下の縫代＝襠裁切丈

(上り身丈＋三つ衿縫代＋繰越×2＋前下＋衿肩明＋縫代)×2＝裁切衿丈



4袖丈＋(上り身丈＋三つ衿縫代＋裾口縫代＋繰越)×4＋裁切衿丈＝用布

同　算式　26＋0.3＋0.15－14＋1＝13.45

26＋0.3＋0.15×2＋1＋1＋2.5＝59.7

15×4＋(26＋0.3＋0.5＋0.15)×4＋59.7＝227.5

**裏の裁ち方**

表に同じ　但し袖口布不用。

**標の附け方**

袖　袖口布を掛けない外は,普通衿羽織と同じ。

褄·襠　裾口に縫ひ目を附けるの外は,衿羽織と同じ。

衿　衿山を接ぎ縫ひ目を開き,幅を二つに折つて,丈標と合標とをする。

**縫ひ方**　(衿)

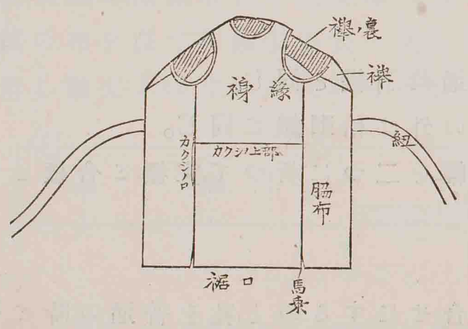
裾口に縫ひ目を附けて,毛抜き合せにするのと,乳を普通の時と同様に折り,これを附ける時は,裏表の前布で,乳を挾んで縫ひ附け,表

に返して,其の兩側では縫ひ代を自然に折り出して,衿を附け,(其時乳の處は,縫ひ殘して穴にして置く)衿先を縫ひ,縫ひ代を開いて綴ぢ附ける。

其他は,普通の袷羽織と同じ。

## 腹　掛

**名稱**　圖參照



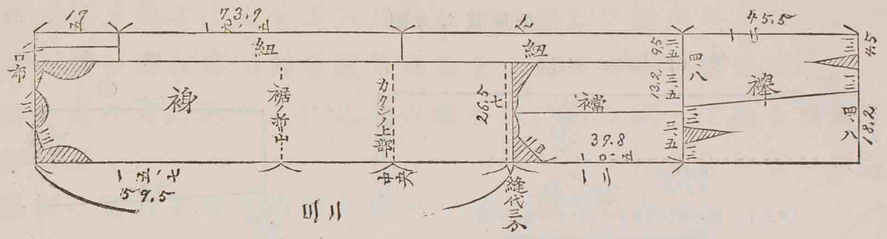

**地質**
- 表　紺木綿
- 裏　淺黃木綿

**仕立て方種類**

袷腹掛·單腹掛襦袢衿袷腹掛。

並幅の布を以て,袷腹掛の表裁ち方,積り方。

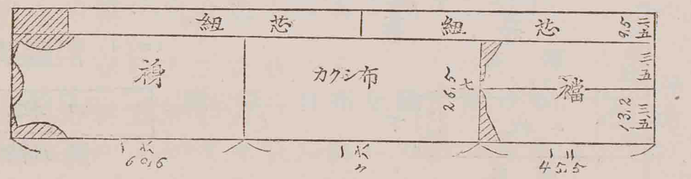





積り方公式　身丈＋襠丈＋襷丈＝用布

同　　算式　32＋12＋12＝56

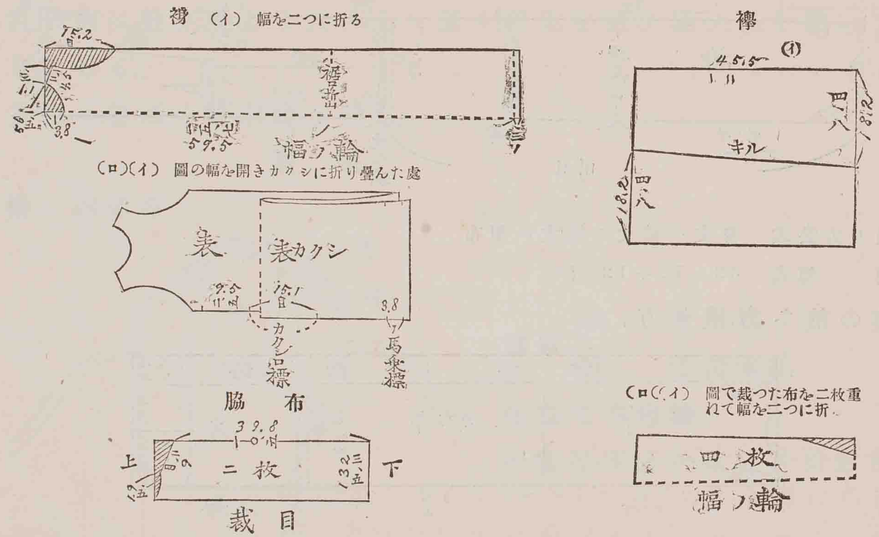
同裏の裁ち方,積り方。




積り方公式　身丈＋カクシ＋襠丈＝用布

同　　算式　16＋16＋12＝44

## 分解裁ち方圖




裏の褶と脇布とは表と同様に裁つ。



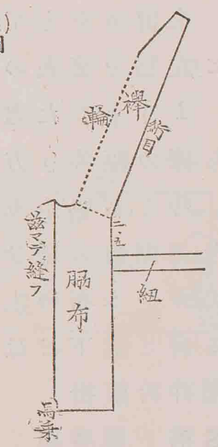
## 縫ひ方

(い)紐に芯を入れて,一方を裁ち同のまゝにして衍け置く。

(ろ)褶の表の方に,芯を入れて,斜の處を縫ひ,引き返して,裁ち目を折り衍け置く。

(は)脇布の裏表を合せ,馬乘り標から,丈10.5寸の方へ縫ひ廻し,其處で上部から2.5寸下つた處に,紐の縫ひ目を下に向けて挾んで縫ひ,2.4寸斜の處には,褶の幅廣き方を,衍け目は脇丈短かき方へ向けて,挾んで縫ひ,引き返して表を出すこと,(イ)圖の通り。

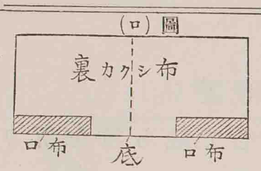
(イ)圖




(に)裏シカク布の口元に,(ロ)圖の様に口布を縫ひ附ける。

(ほ)褶の右脇止りから,2.5寸下つた處にカクシ布の表と合せて(カクシ布は縫ひ代だけ口から上に出し置く),口4寸の間を縫ひ表に返す。

(ロ)圖




(へ)裏表の褙で,脇布を挾んで,上部から2.5寸の間縫ひ,其處で糸留めをなし,隱しの口の間は,隱し布と裏褙とで,脇を挾んで縫ひ,口の下止りにも糸留めをなし,其糸で馬乘り止りまで縫ひ,其止りでも糸留めをして,褙の馬乘りを縫ふ。

(と)左脇を裏表の褙で,脇布を挾み,表の裏に隱し布を當てゝ,裾口から1寸上つた處まで縫ひ,其處で糸留めをして,馬乘りを縫ふ。

(ち)襷の幅狹き方を,褙の肩に右を上にして挾み,左脇止りから肩,顎を經て,右脇止りに終る樣に縫ひ,裾口から表に引き返す。

(り)褙裾口の縫ひ代を折り,縫ひ込みは表に,包んで衛ける。

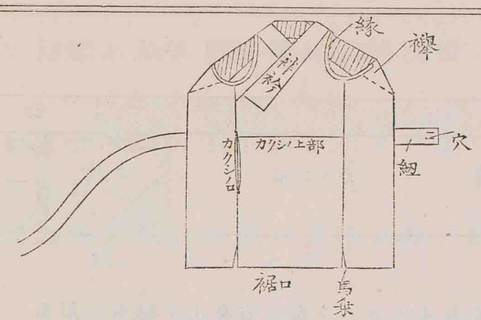
(ぬ)カクシ布の上部を,二枚共裏布の表に,小針を出して縫ひ付ける。

(る)肩と脇下とは,襷の方に1寸かゝる樣に,顎及袖刳りに細い緣を取る。

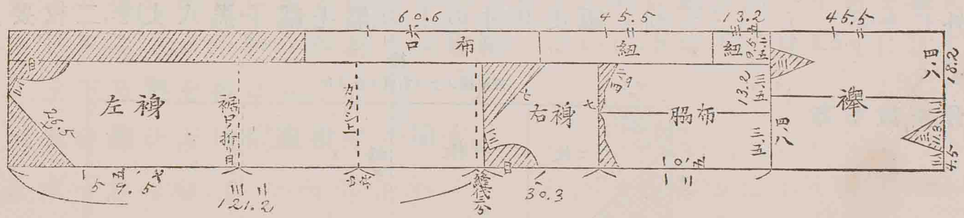
襦袢衿腹掛

名稱　圖參照





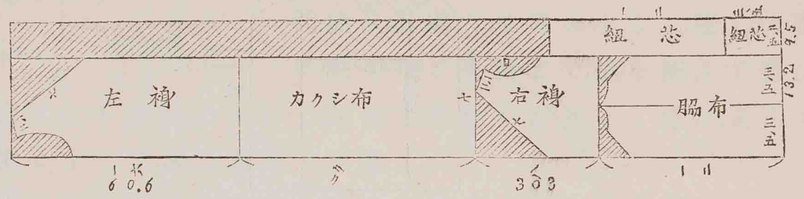

並幅の布を以て,襦袢衿腹掛表の裁ち方積り方。




積り方公式　身丈＋右身丈＋脇布＋襷丈＝用布

同　　算式　32＋8＋12＋12＝64

## 同裏の裁ち方

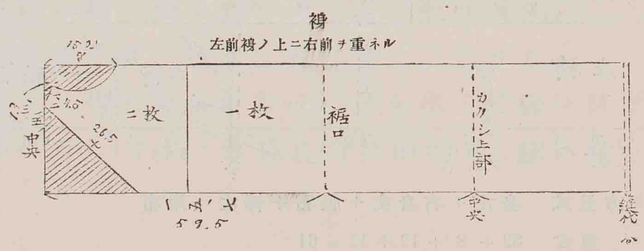



裏の積り方公式　左身丈＋カクシ布＋右身丈＋脇布＝用布

同　　算式　16＋16＋8＋12＝52

外に半衿として,三つ割り幅丈9寸のもの(黒毛繻子·黒八丈)を,二枚要する。

## 分解裁ち方






注意　裏褄も表と同様に裁ち,脇布·襷は,前述腹掛けと同じ。

**縫ひ方**

(い)前の斜の處を,裏表合せて左右共縫ひ,折りは裏の方へ返し,左を上にして重ね,躾を掛ける。

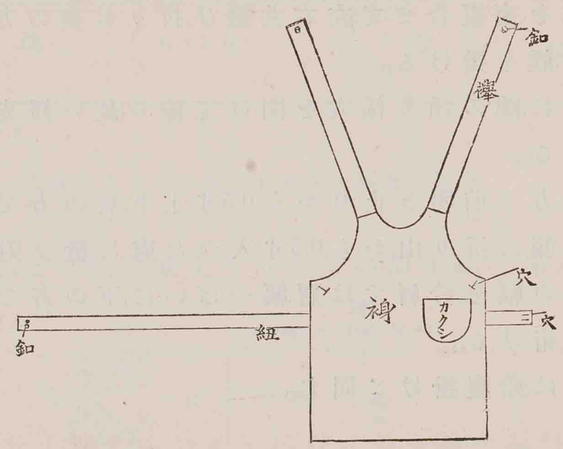
(ろ)短かい紐先に,圖の通り横穴を開けて滕り,長い紐先には穴に合せて釦を附ける。

(は)半衿の掛け方　前明き止りから,0.5寸上り,肩の方では,襷に1寸かゝる様に,裏側に折り山から,0.5寸入つた處に縫ひ附け,半衿を表に折り返し,表の幅を,衿肩では肩幅一ぱいに,下の方では1.5寸にして,上下及奥を衛ける。

其他の縫ひ方は,衿腹掛けと同じ。

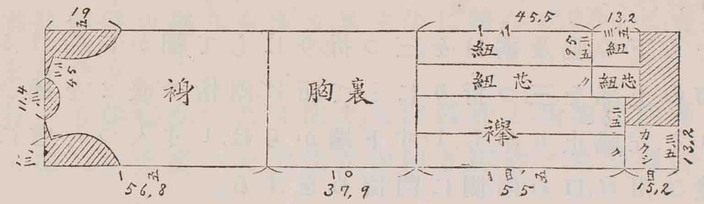
## 單腹掛

名稱　圖參照






並幅の布を以て單腹掛の裁ち方,積り方。




胸裏は,裙に合せて裁つ。

積り方公式　身丈＋胸裏＋襷丈＋カクシ丈＝用布

同　　算式　15＋10＋14,5＋4＝43,5

但し襷の芯は別布を用ひる。

**縫ひ方**

(い)襷は兩端を,紐は一端を,裁ち目のまゝにして,幅1寸に絎ける。

(ろ)胸裏の下部を,三つ折りにして絎ける。

(は)胸裏と裙との肩で襷を挾み,脇は上部から,2.5寸下つた處に,左は短

かい紐を,右は長い紐を挾んで,脇·袖附け刳り·肩·顎と續けて縫ひ,表に返す。

(に)胸裏から下の,脇及裾口を,三つ折りにして細かに絎ける。

(ほ)隱し布の上部を,三つ折りにして絎け,兩横と底とを縫ひ代だけ折り,これを左脇止りから,1寸下端からは,1寸入つた處に置き,ミシンで縫ひ附け,口の兩側に閂留めをする。

(へ)褄の先に釦を附け,其釦を掛ゝる穴を,出來上り圖の通り脇上部に斜に開けて滕る。

(と)長い紐には襦袢衿腹掛と同樣に,穴を開け,短かい紐には釦を附ける。

## 脚　絆

**地質**　木綿·甲斐絹·ヅツク(帆布)等。

**色**　白·黑·淺黄·花色等。

**仕立て方の類種**　山附き脚袢·鳥足脚袢·大津脚袢·横地脚袢·釦掛け脚



袢(但しヅツクは,釦掛のみに用ひる)。

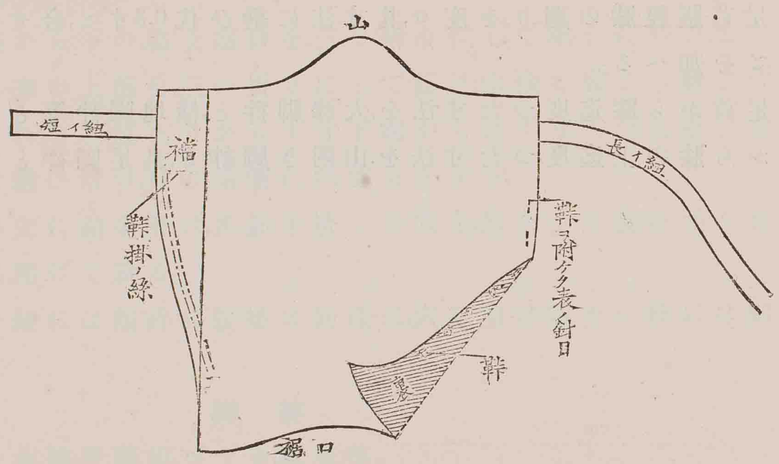
**寸法の度り方**

**幅**　足首·脹脛·膝の廻りを度り,其寸法に縫ひ代0.3寸と,合せ代0.6寸とを加へる。

**丈**　足首から膝迄度つた寸法を,大津脚袢と,横地脚袢等とし,足首から膝の上迄度つた寸法を,山附き脚絆と,鳥足脚袢とする。

## 山附き脚絆

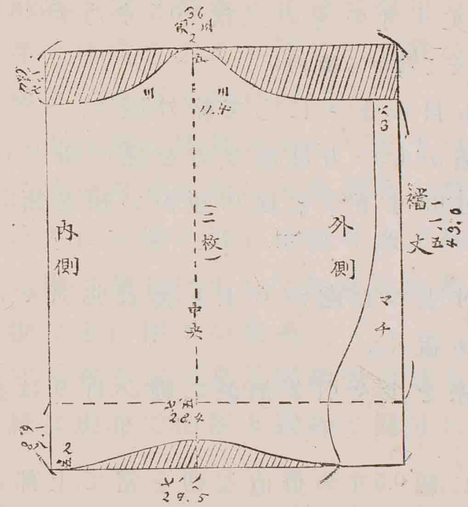
### 名稱　圖參照




並幅23寸の布を以て,袷山附き脚絆表の裁ち方。
但し紐は共布で別に取る。



中表に丈を二つに折る



裏の裁ち方　表と同様。

**紐の裁ち切り寸法** {幅1.5寸丈19寸のもの二枚　同仕立て上り寸法
幅1.5寸丈4寸のもの二枚　0.5寸乃至0.6寸

**縫ひ方**　(捻糸で三四針目には,返針をしながら縫ふ)

(い)紐を四枚共,一方の端を,裁ち目のまゝにして絎け置く。

(ろ)襠の裏表を合せて,上部の横から,一方眞直な方を縫ひ,折りは裏に返す。但し上部の角から寸0.8寸下つた處に短かい紐を,絎け目を下に向けて挾んで縫ふ。

(は)襠の丸味の附いた方を,1.8寸上つた處から上を,裏表共別々に細かく縫つて糸を少々引き締め置く。

(に)裾口及上部を裏表合せて,糸を少々引き加減に縫ひ,折りは裏に返す。

(ほ)外側の裏表を合せ,裏の方に,幅0.5寸の眞直な切を當て,上部から0.8寸下つた處に,長い紐を挾んで縫ふ。

(へ)内側の方で,裾口から1.8寸上つた處まで,裏表を合せて縫ひ,折りは



裏に付けて,表に引き返す。

(と)内側の表と,襠の裏表とを合せ,襠の方を少々寛めて釣り合ひを取り,下部では,襠の消える樣にして縫ひ附け,折りは身の方に返して,裏の縫ひ代を折り,絎け附ける。

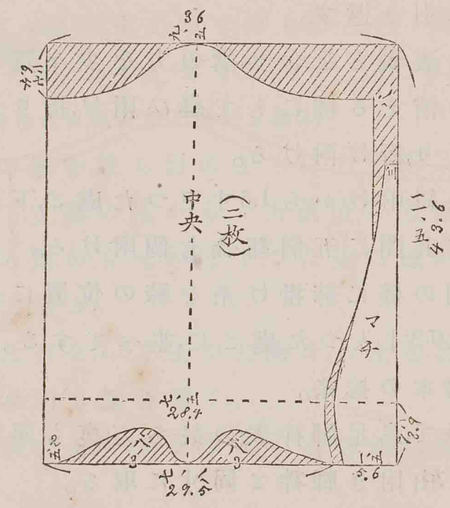
(ち)外側の方の裏に,紐附けから1.5寸下つた處と,下からは1.8寸上つた處とに,鞐を附け,其間に五個,都合七個附ける。

(ち)内側の方には,圖の樣に鞐掛け糸を鞐の位置に合せて,端から0.5寸入つた處と,更に0.2寸入つた處とに,並べてする。

但し掛け糸は四本の捻糸。

並幅23寸の布を以て,鳥足脚袢表の裁ち方(裏も同樣)

但し紐は別布で,山附き脚袢と同寸に取る。



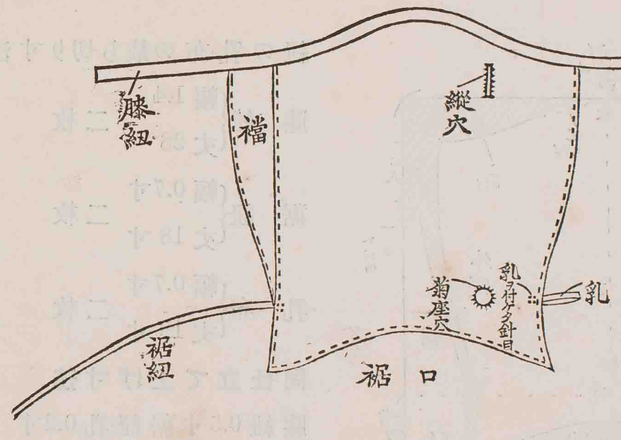

**縫ひ方**

裾の形が異るのみで他は山附き脚絆と同じ。



**大津脚絆**

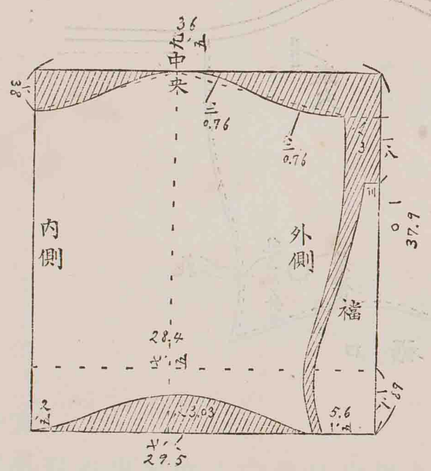
**名稱　圖參照**



並幅20寸の布を以て,大津脚絆の裁ち方(單)

但し紐は共布で別に取る。

(丈二つ折り)




紐の乳布の裁ち切り寸法及枚數

膝紐 幅1.4 丈28 二枚

裾紐 幅0.7寸 丈18寸 二枚

乳布 幅0.7寸 丈18寸 二枚

**同仕立て上げ寸法**

膝紐0.5寸裾紐·乳0.2寸

**縫ひ方** (廻りを縫ふ時は捻糸で,縫ひ方は三四針目に返し針をする)



(い)裾紐を,一方の端を,裁目のまゝにして,絎ける。

(ろ)乳布を,兩端共裁ち目のまゝにして,絎ける。

(は)襠の眞直な方を,細く三つ折りにして縫ふ。

(に)內側(眞直な處)に,裾の曲つた方を合せ,襠の幅廣き處は襠を少々寛くして,縫ひ,折りは身の方に返し,伏せ縫ひにする。但し襠から下は,細く三つ折りにして,續けて縫ふ。

(ほ)外側の方を,細く三つ折りにして,糸を引き加減に縫ふ。

(へ)裾口を,三つ折りにして縫ふ。

(と)上部の紐を附ける,其附け方は,襠のある方に,紐を4寸出して縫ひ附け,紐幅を定めて,兩端を縫ひ端から端まで絎ける。

(ち)裾紐の裁ち目を,縫ひ代だけ表の方へ折り返し,これを襠を附けた方の裾口から1.8寸上つた處の,裏に當てゝ四角に小針を出して,縫ひ附ける。

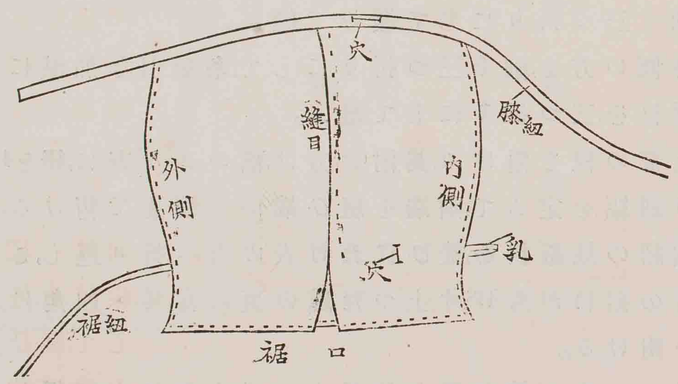
(り)乳を,一方の縫ひ代だけ長くして,丈を二つに折り,長くした分を表

に折り,これを外側の方に,裾口から1.8寸上つた處の裏に當てゝ,紐と同樣に附ける。

(ぬ)外襠の方に,乳と同じ高さに端から,1.8寸入つた處に0.4寸丸の菊座穴を開けて滕り,菊座穴と同深さに,上部紐附けから0.5寸下つた處に,1寸の縦穴を開けて滕る。

**横地脚絆**

**名稱** 圖參照

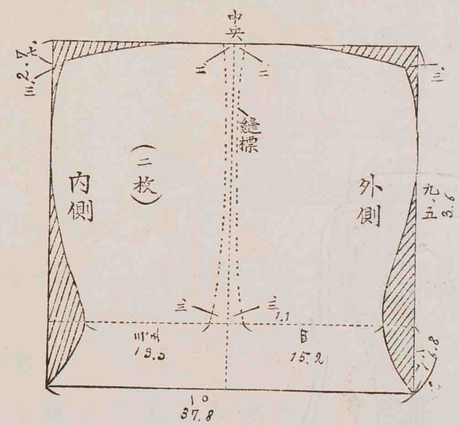





並幅19寸の布を以て横地脚絆の裁ち方(單)

但し紐は共布で別に取る。紐は大津脚絆と同樣に取る。

(丈二つ折り)




**縫ひ方**

(い)細乳を大津脚絆と同樣に絎ける。

(ろ)中の縫ひ標を合せて縫ひ,折りは幅の狹い方に返し,針目0.5寸位に絎け附ける。

(は)幅の兩端及裾口を,細く三つ折りにして,大津脚絆と同樣に縫ふ。

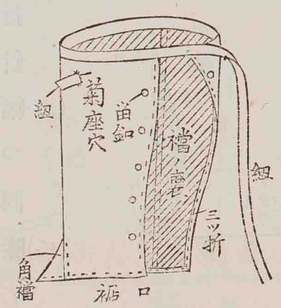
(に)膝紐を,外側の方に4寸出して,縫ひ附け,絎けること大津脚絆と同じ。

(ほ)乳及裾紐を大津脚絆と同様に附ける。

(へ)内側に乳と同じ高さに,端から1.8寸入つた處に,0.5寸の縦穴を開けて滕り,上部の紐の上には,端から2.8寸入つて,紐幅の中央に0.8寸の横穴を明けて滕る。

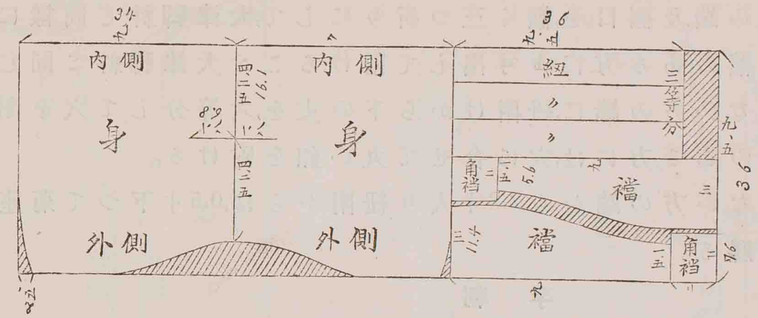
**釦掛けの脚絆**

**名稱**　圖參照






並幅の布を以て,釦掛け脚絆の裁ち方積り方(單)




積り方公式　3身丈+角襠丈=用布

同　　算式　9 × 3 + 2 = 29

**縫ひ方**

(い)身と襠との,眞直な處を合せて縫ひ,折りは身の方に返して,伏せ縫ひをする。

(ろ)裾の方で,幅の中央を裁ち切つた處に,襠の二方を縫ひ付け,折りは

身の方に返して,伏せ縫ひをする。

(は)左右の端及裾口を,細く三つ折りにして,大津脚絆と同様に縫ふ。

(に)紐を襠のある方に4寸出して附けること大津脚絆と同じ。

(ほ)襠のない方の端に,紐附けから下の丈を,六等分して穴を開けて滕り,襠のある方には,穴に合せて丸い釦を附ける。

(へ)襠のない方の端から,2.8寸入り紐附からは,0.5寸下つて菊座穴を開けて滕る。

## 手　刺

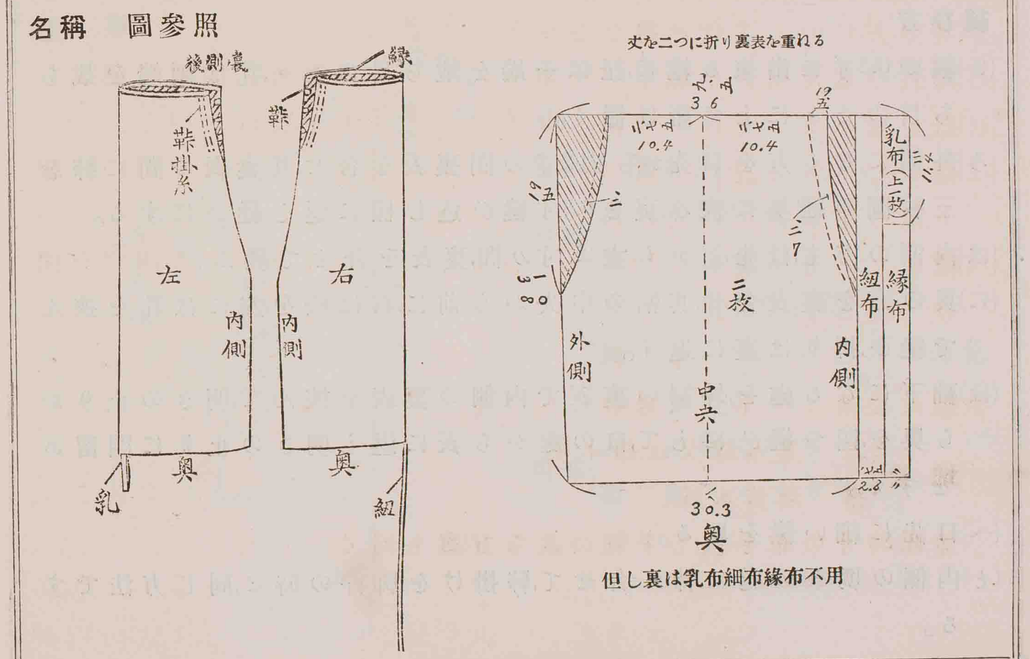
手刺は農業に従事する場合に用ひる。

**地質**
- 表　黑木綿又は紺木綿。
- 裏　淺黄木綿。

並幅20寸の布を以て手刺の裁ち方(裏も同寸)



名稱　圖參照



## 縫ひ方

(い)幅が0.2寸に出來る樣に,紐は一端を裁ち目のまゝ,乳は兩端を裁ち目のまゝにして絎け置く。

(ろ)外側になる方を,口先から丈2寸の間裏表を合せ,其裏表の間に鞘を三枚圖の通りに挾み,裏を0.3寸縫ひ込む樣に,返し縫ひにする。

(は)内側の方も,口先きから丈2寸の間,裏表を合せて縫ふ。

(に)奥の方を裏表合せ,其幅の中央から前に,右は紐を,左には乳を挾んで縫ひ,折りは裏に返す。

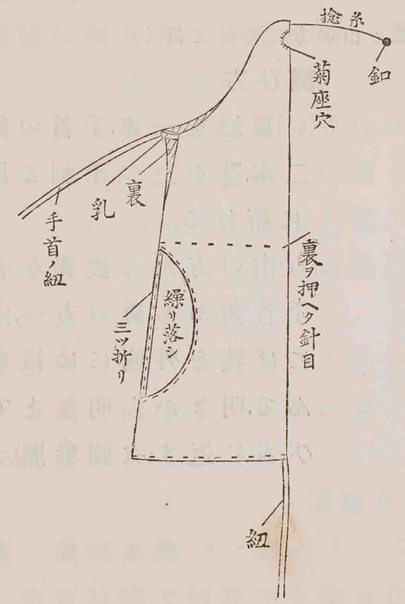
(ほ)袖下になる處を,外側の裏表で内側の裏表を挾んで,明きの止りから奥を,四つ縫ひにして,口の處から表に返し明きの止りに閂留めをする。

(へ)口先に細い縁を取る。

(と)内側の明きの處に,鞘に合せて,鞘掛けを脚袢の時と,同じ方法でする。



## 手甲




手甲は,農業に從事する人,行商人旅人等が用ひる。

**名稱**　圖參照

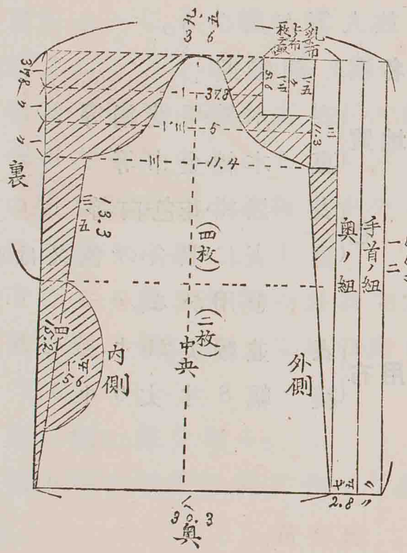
**地質**
- 表　木綿·甲斐絹等
- 裏　木綿·金巾等

**色**
- 表　黑·紺·花色·白等
- 裏　表に似合の色又は薄色を用ひる。

**用布**
- 表　並幅丈24寸
- 裏　幅8寸丈9寸

## 裁ち方

裏表共丈を二つに折り表の下に裏を左の端と山の方に合せて置く。

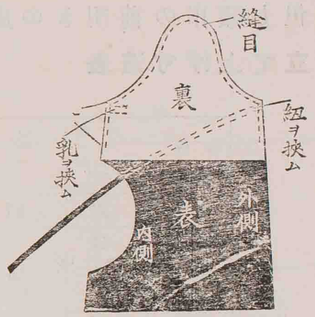



## 縫ひ方

(い)奥紐を一本,手首の紐を二本,乳を三つ,手刺と同様に絎ける。

(ろ)山の方から裏表を合せ手首角から奥の方へ,内側には乳を,外側には紐を挾んで,明きから明きまで縫ひ,表に返す(次圖參照)。






(は)裏の奥を縫ひ代だけ裏に折り返し,内側の刳り落しの處は,細く三つ折りにして縫ひ置く。

(に)明きから奥を,裏のある間は,外側の裏表で内側二枚を挾んで,四つ縫ひにし,それから奥は,二枚で縫ひ,折りは外側の方に返し,二枚の處は,縫ひ代を伏せ縫ひにする。

(ほ)奥を折つて,三つ折りにし,其三つ折の中に,乳と紐とを挾んで(位置は手刺と同樣)三つ折りの處を縫ひ,明きの止りと刳り落しの兩側に,閂留めをする。

### 消防衣

**地質**　眞岡木綿

**色**　表盲目縞で紋及字を染め出す。裏,淺黄

但し頭巾の前明きの處の縁は,毛襦子を用ひる。

## 仕立て上げ寸法表

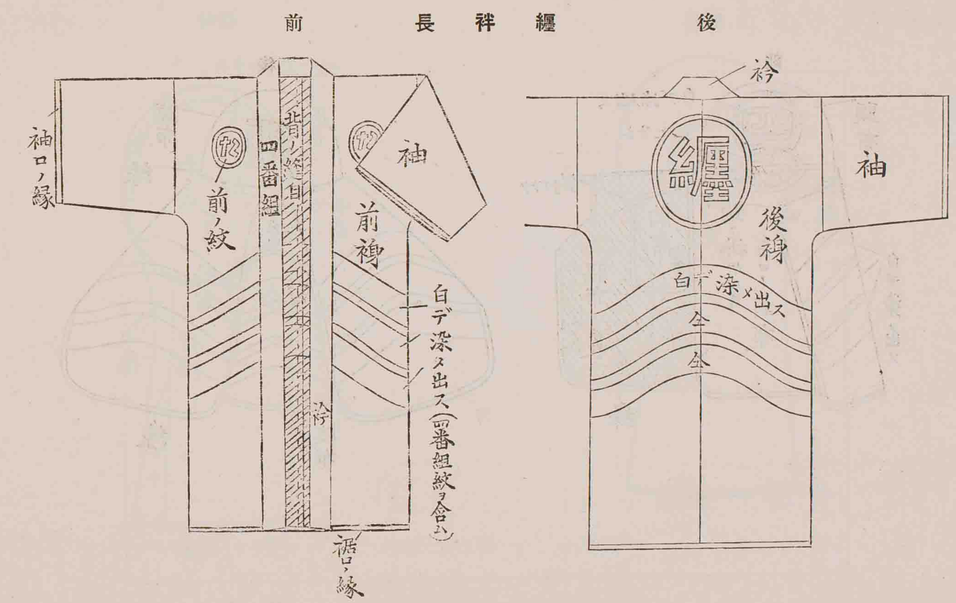
(寸單位)

| 名稱＼種類 | 長袷纏 |
|---|---|
| 袖丈 | 9.5 |
| 同附 | 同上 |
| 同口 | 8.5 |
| 同幅 | 同上 |
| 身丈 | 31 |
| 後幅 | 7.5 |
| 前幅 | 5.2 |
| 衿幅 | 1.5 |
| 衿肩 | 5.2 |

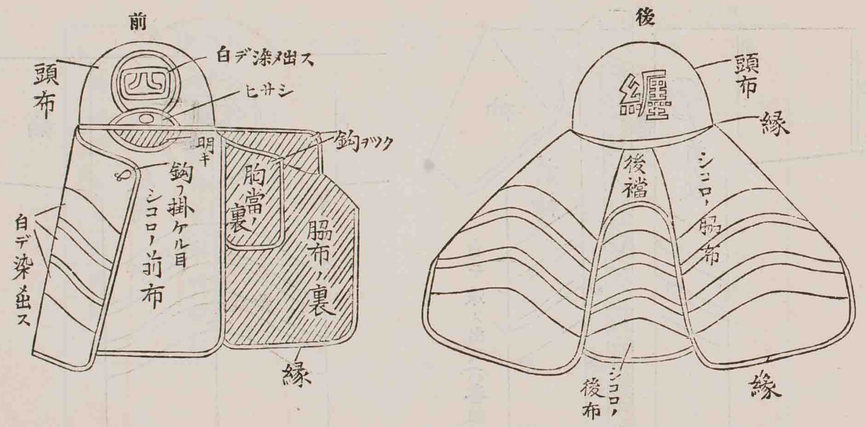
| 名稱＼種類 | | 頭巾 |
|---|---|---|
| 頭巾 | 幅 | 8 |
| | 丈 | 5.5 |
| 脇布 | 幅 | 8 |
| | 丈 | 11.5 |
| 後布 | 幅 | 同上 |
| | 丈 | 同上 |
| 前布 | 幅 | 同上 |
| | 丈 | 同上 |
| 胸當 | 幅 | 4 |
| | 丈 | 6 |
| ヒサシ布 | 幅 | 4 |
| | 丈 | 1.5 |
| 眼ノ處ノ明キ | 幅 | 4 |
| | 深サ | 1.5 |



## 名稱　圖參照

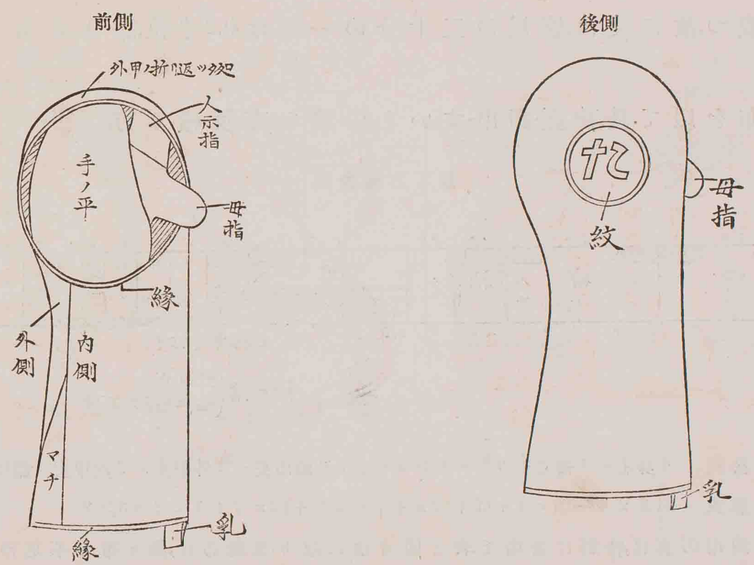


## 頭巾


前
後
頭布
白デ染メ出ス
ヒサシ
鈎ヲツク
明キ
鈎ノ掛ケル目
シコロノ前布
白デ染メ出ス
胸當ノ裏
脇布ノ裏
縁
頭布
縁
後襠
シコロノ脇布
シコロノ後布
縁



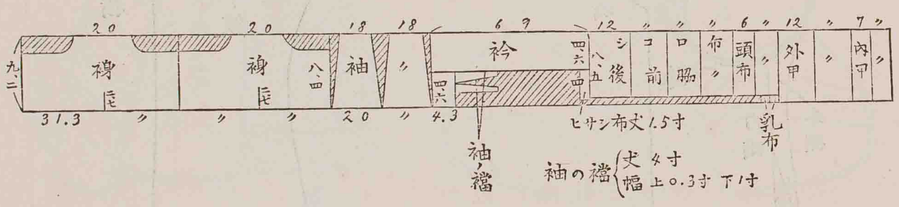
## すいし


前側
後側
外甲折返ッタ処
人示指
手ノ平
母指
縁
外側
内側
マチ
縁
乳
紋
母指
乳

注意　裁つ前に表の裏に,裏を合せて,全部二本の糸で刺し縫ひにした後ち裁つ,故に丈は,總尺の二十分の一,幅は0.2寸位詰まるものとする。

並幅の布を以て.長袷纏.頭巾.すいしの裁ち方及積り方。

裁ち方總合圖




積り方公式　4身丈＋4袖丈＋衿丈＋4シコロ丈＋2頭巾丈＋2外甲丈＋2内甲丈＝總尺

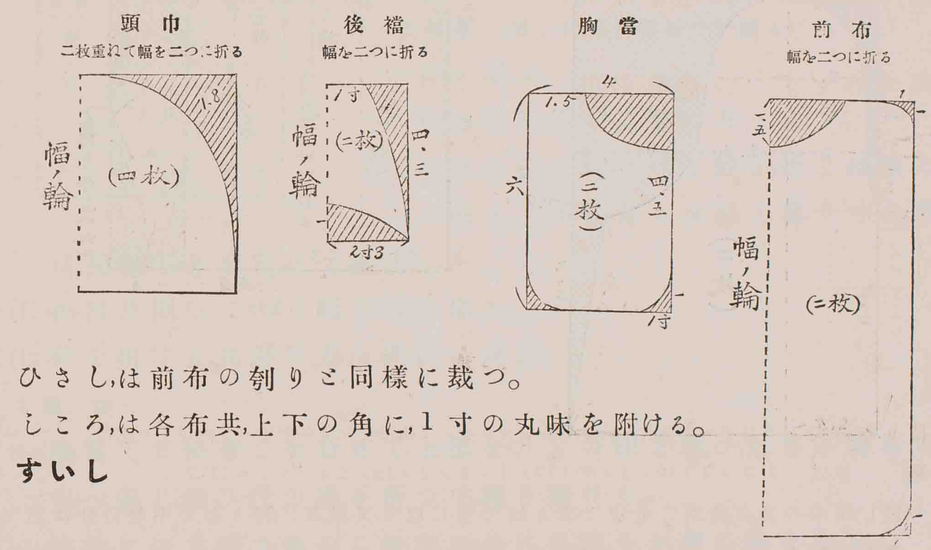
同　　算式　31.3×4＋10×4＋69＋12×4＋6×2＋12×2＋7×2＝328 2

但し頭巾の裏は,特別に金巾で,表と同寸法に取り,又縁布は,殘り布と不足の分は別布とで取る。



分解裁ち方圖

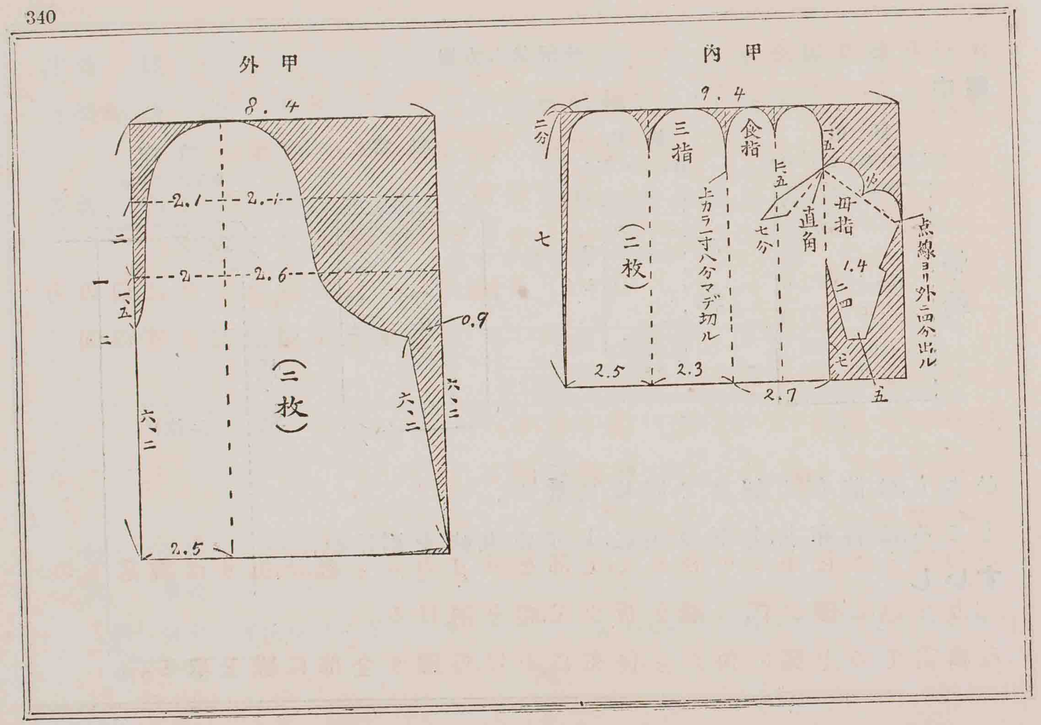
## 頭巾




ひさし,は前布の刳りと同様に裁つ。

しころ,は各布共,上下の角に,1寸の丸味を附ける。

**すいし**






## 紋の太さ及位置

(寸單位)

| 名稱＼種類 | | 太サ | 下ヲ |
|---|---|---|---|
| 背 | 竪 | 8.2 | 0.5 |
| | 横 | 7.7 | |
| 前 | 竪 | 2.2 | 3 |
| | 横 | 2.5 | |
| 頭 | | 4 | 中央 |
| すいし | | 2 | 2 |

## 縫ひ方

1 長袢纏　(縫ひ代は全部折つて纏る)

(い)背を縫ふ。

(ろ)袖を附け,折りは袖の方へ返す。

(は袖下及脇をつゞけて縫ひ,折りは,前の方へ返す。(但し袖下及脇上部,3寸の間には,見返し布を當てゝ縫ふ)。

(に)袖口及裾口に0.2寸幅の縁を取る。

(ほ)衿を附ける,其附け方は袢纏に同じ。

2 頭巾

(い)胸當てと後布とを合せて,上部を3寸の間を縫ひ,折りは胸當ての方へ返し,縫ひ代の端を折つて,纏り附ける。

(ろ)胸當ての上部の角から,後布にかけ,外廻り全部に縁を取る。

(は)左右の脇布の間に,上部から襠布を縫ひ附け,折りは脇布の方へ返し,縫ひ代の端を折つて纏る。

(に)脇布の上部の處で,後の方を3.5寸殘し,其他外廻り全體に緣を取る。

(ほ)前布の外廻り,及明きの處に,緣を取る。

(へ)前後の頭巾を合せて,丸みの處を縫ひ,縫ひ目を開く,裏も同樣に縫ふ。

(と)表頭の裏に,綿を引き,其中に裏を入れて綴ぢる。

(ち)ひさし布の外側に緣を取り,これを頭布の前幅の,中央の下部に合せて,鼻けを掛け置く。

(り)幅0.8寸,長さ18寸の紐を,二本綉ける。

(ぬ)後襠布の中央に,後布幅の中央と,後頭布幅の中央とを合せて,待ち針を打ち,前は,頭布幅の中央と,前布幅の中央とを合せて,左右に釣り合ひを取り(胸當ての上部は,前布の下になる樣に,又左右共脇布の下には,紐を綴ぢ附けて置く)前後の布を脇で突き合せ,表に縫ひ



目の出る樣に縫ひ,其縫ひ代に緣を取る。

(を)左脇布及胸當ての前上部の端に,鈎フツクを附け,右脇布の上部の端及右胸當て上部に,端から1寸入つた所にフツクに合せる輪を附ける。

3 すいし

(い)外甲の袖下の外側に,襠の眞直な方を縫ひ附け.縫ひ目は幅の廣い方へ返し,縫ひ込みの端を折つて,纏り附ける。

(ろ)前後の袖下を合せ,外の方に見返し布を當てゝ縫ひ,折りは前の方へ返し,見返しの端を折つて纏り附ける。

(は)手甲の先を裏側の方へ0.3寸位,自然に折り返る樣に縫ひ縮めて,緣を取る。

(に)奥の方に緣を取る。

(ほ)乳布を(幅1寸丈2.5寸)中央に,縫ひ目の行く樣に折り疊んで,ミシンを掛け,丈を二つに折つて,奥の幅の中央から前の方へ,位置を定め

て縫ひ附ける。

(へ)内甲の内外の袖下を,食指の附け根まで續けて縫ひ,折りは,外側の方へ返す。

(と)拇指の先きから,同附け根を經て食指の裏布に襠を縫ひ附ける(襠は拇指の裏から續く)。

(ち)食指の上部,及附け根を經て,三指の終まで縫ひ,表に引き返す。

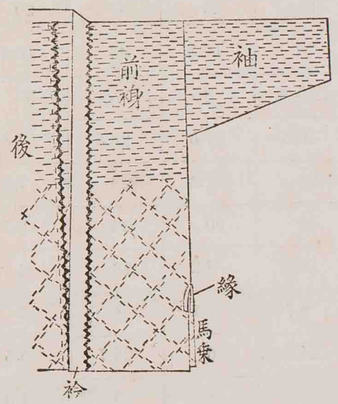
(り)奥に縁を取る(但し奥の幅の山から後の方,2.5寸の間は縁を取らずに置く)。外甲の中に,内甲を入れ,甲の先きでは丈を揃へ,奥の縁を取らない部分を,外甲に纏り附ける。



## 柔道着

**名稱**　圖參照

(左半身)




**地質**

天竺木綿·三河木綿·眞岡木綿等。

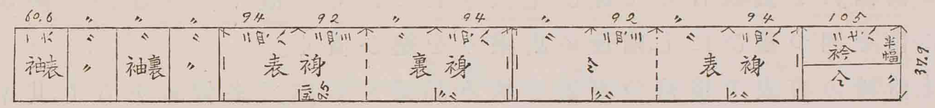
## 仕立て上げ寸法

(鯨尺は寸單位 メートルは糎單位)

| 寸法 / 名稱 | 特大 | | 大 | | 中 | | 小 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 鯨尺 | メートル | 鯨尺 | メートル | 鯨尺 | メートル | 鯨尺 | メートル |
| 身丈 | 25.5 | 96.6 | 24 | 91 | 23 | 87 | 20 | 75.8 |
| 裄 | 19.7 | 74.6 | 18.5 | 70 | 17.5 | 66 | 16 5 | 63 |
| 後幅 | 10.5 | 39.7 | 9.2 | 35 | 8.7 | 33 | 80 | 30.3 |
| 前幅 | 8.7 | 33 | 80 | 30.3 | 7.5 | 28.5 | 6.8 | 26 |
| 袖丈 | 7.6 | 29 | 7.4 | 28 | 7.4 | 28 | 7.2 | 27 |
| 袖幅 | 10.7 | 40.5 | 9.3 | 35 | 90 | 34 | 8.7 | 33 |
| 袖口 | 5 | 19 | 4.5 | 17 | 4.2 | 16 | 4 | 15 |
| 衿肩 | 2.4 | 9 | 2.3 | 8.7 | 2.1 | 8 | 2 | 7.5 |
| 馬乘 | 7 | 26.5 | 6.5 | 24.6 | 6 | 22.7 | 5.5 | 21 |
| 衿幅 | 1.3 | 5 | 1.3 | 5 | 1.3 | 5 | 1.3 | 5 |
| 肩ヨリ下細カク刺ス寸法 | 12 5 | 47.4 | 11 | 41.7 | 10.5 | 40 | 10 | 38 |



幅10寸の天竺木綿を以て柔道着の裁ち方,積り方(裏表共布)。




積り方公式　8上り袖丈＋9上り身丈＋總縫代＝用布

同　　算式　7.5×8＋24×9＋122＝288.2

總縫代の内譯　袖 0.5×8＋　三ツ衿縫代 0.3×9　＋　裾の縫代 0.5×5　＋　衿肩 2.5＋　衿山接き代 0.5　＝12.2

**標の附け方**

後裾口を輪とし,前裾口には,縫ひ目を附け,他は寸法の異るのみで,袢纏と同じ。

**縫ひ方**　(絲は木綿絲を二本捻り合せて丈夫に仕立てる)

(い)裏表の袖下を合せ口先きの方から,四つ縫ひにし,袖附けの方では,2寸か3寸裏表を,別々に縫ひ表に返す。

(ろ)袖口を二枚共に,三つ折りにして千鳥で押へる。

(は)前裾口を裏表合せて縫ひ,毛抜き合せにして置く。

(に)背を四つ縫ひにし,前後の馬乘りを縫ひ置く。

(ほ)前袴の裏表で,後袴の裏表を挾み,馬乘りの處で糸留めをなし,其糸で脇を四つ縫ひにする,但し脇上部では後の縫ひ代にクセを取つて置く。

(へ)袖を衿筒袖と同樣に縫ひ附ける。

(と)衿山を接ぎ,縫ひ目を開き,衿纏と同樣に附けて,衿先きを縫ひ,裏衿を折り附けて,千鳥で押へる。

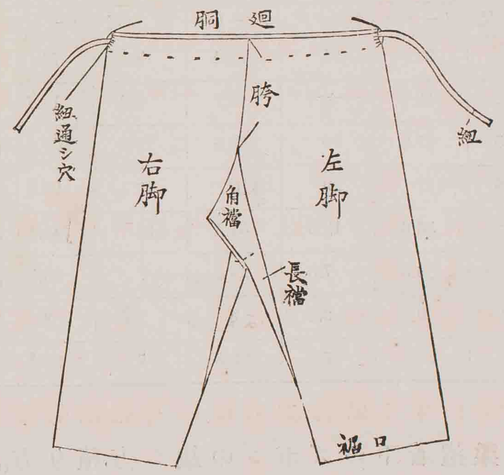
(ち)圖の通りに,肩から11寸位の間は細かに,それから下は粗く刺し縫ひにする。

附言　ミシン縫ひにする時は,圖の樣に背·脇·袖附け共,縫ひ目を裏に出して千鳥で押へる。



## 柔道着下のズボン

名稱　圖參照



## 仕立て上げ寸法

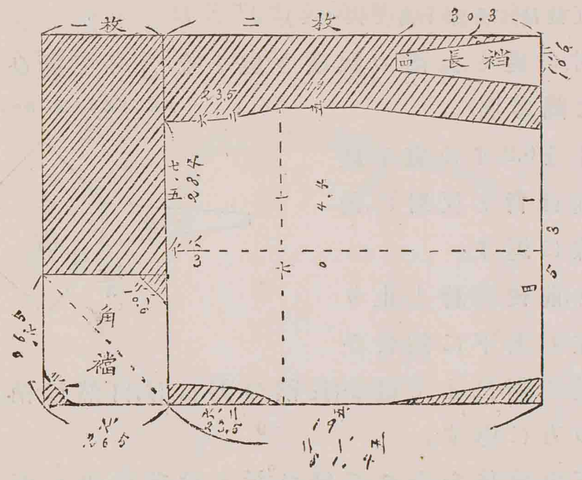
（鯨尺は寸單位 メートルは糎單位）

| 寸法 / 名稱 | 極大 | | 大 | | 中 | | 小 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 鯨尺 | メートル | 鯨尺 | メートル | 鯨尺 | メートル | 鯨尺 | メートル |
| 脇丈 | 22 | 83 | 21 | 79.5 | 19.5 | 74 | 18.5 | 70 |
| 胯上 | 5.2 | 19.7 | 5.2 | 19.7 | 5.2 | 19.7 | 5.2 | 19.7 |
| 腰圍 | 31.5 | 11.9 | 30 | 113.5 | 28.4 | 107.5 | 26 | 98.5 |
| 胴廻リ | 30.8 | 117 | 29 | 110 | 26.3 | 99.5 | 24 | 91 |
| 裾口 | 14.2 | 53.8 | 13.6 | 51.5 | 12 | 45.5 | 11.5 | 43.5 |
| 角襠 | 8 | 30.3 | 7.5 | 28.5 | 7 | 26.5 | 6.5 | 24.5 |
| 長襠上部巾 | 2.6 | 9.8 | 2.4 | 9 | 2.1 | 8 | 2 | 7.5 |
| 同長サ | 8 | 30.3 | 7.5 | 28.5 | 7 | 26.5 | 6.5 | 24.5 |

幅20の布を以て柔道着下のズボンの裁ち方,積り方。

但し大の寸法






積り方公式　（上り脇丈＋上下の折り代）×２＋角襠＝用布

同　　算式　（21＋1.5）×２＋７＝50